

# 大歲小百年史



1995

大歲小百年史

山口市立大歲小学校



# 大歳小百年史

1995



山口市立大歳小学校



# 校歌

作詞 田中恵子  
作曲 弘中 策

一、朝の光だ さわやかな  
季節の風が 吹いてくる  
きょうも楽しく 肩ならべ  
あかるいちえを みがこうよ  
大歳大歳 われらの小学校

二、大地にめぐる 青草の  
強いいのちを みならって  
若い力と まごころを  
あわせて みんな 伸びようよ  
大歳大歳 われらの小学校

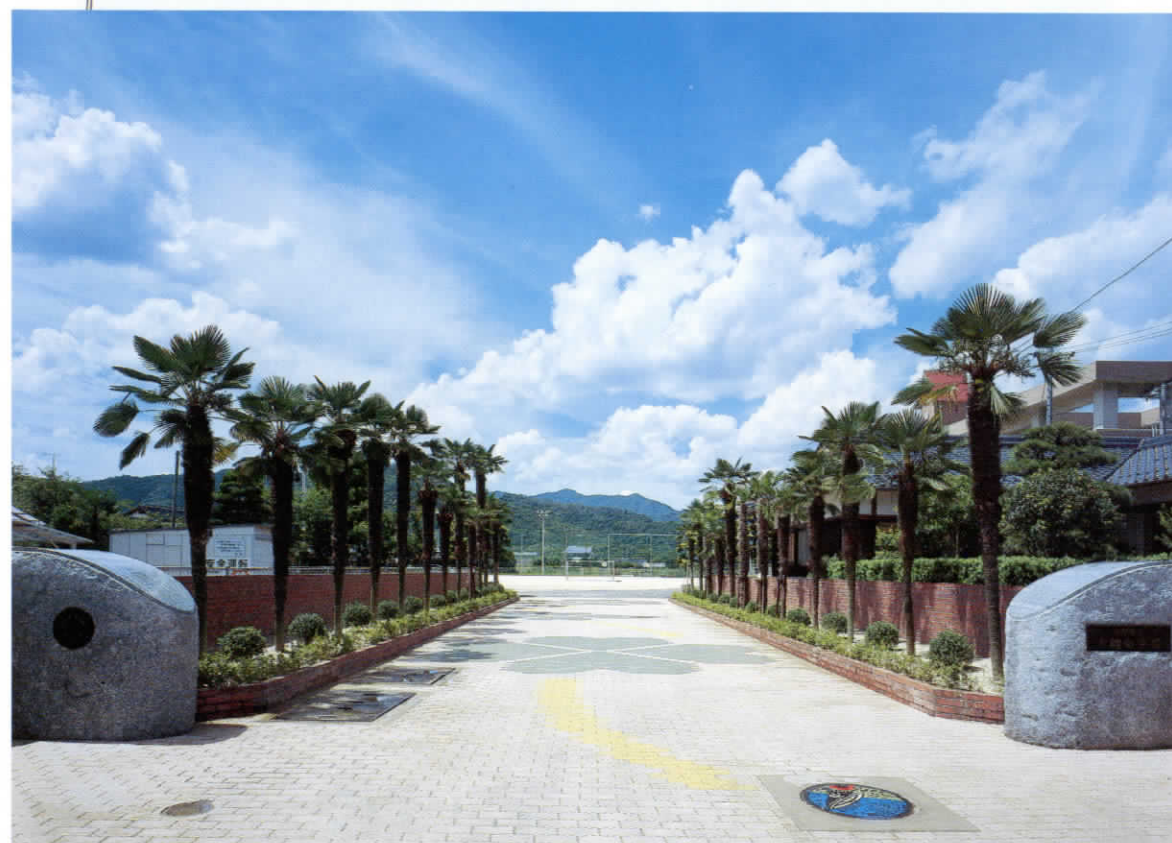
三、ぼくのわたしの せいかつが  
平和なきょうど きずくのた  
正しくな おく むつまじく  
あすをめざして 進もうよ  
大歳大歳 われらの小学校



校 旗



校 章

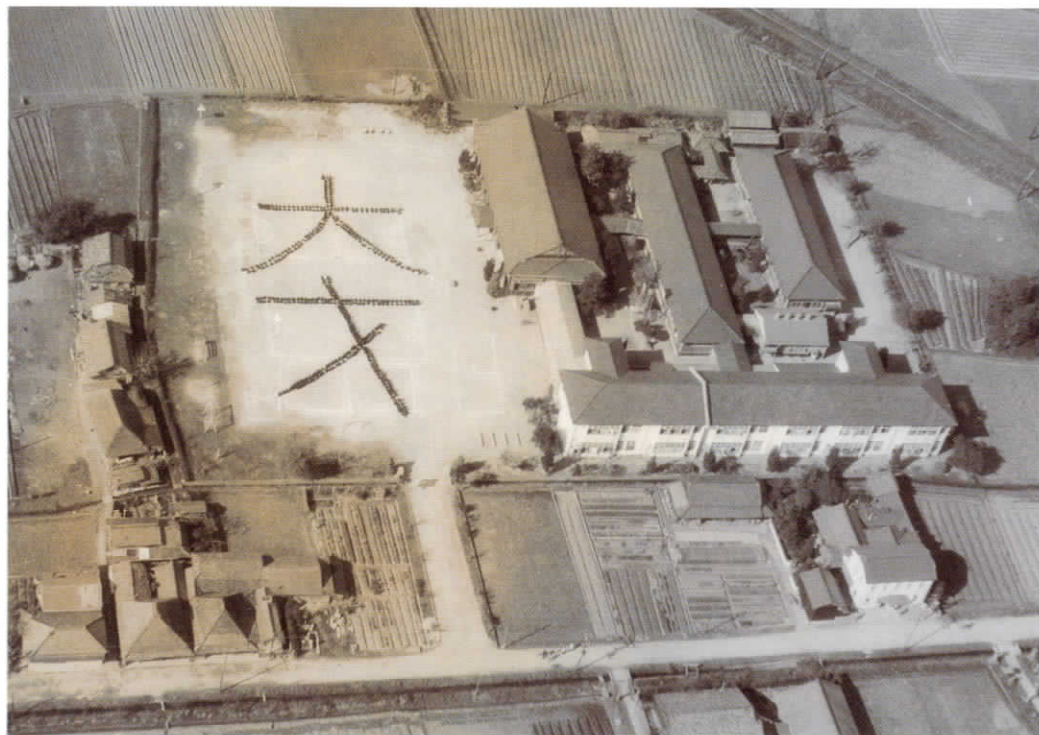


校 門



大歳さま





昭和38年ころの学校周辺



平成6年の学校周辺



昭和40年創立70周年記念



平成7年創立100周年記念





◀ 学校上空から  
矢原方面を望む

▶ 学校上空から  
朝田方面を望む





## 大歳ふるさと散歩



湯田温泉駅付近



周布政之助顕彰碑(周布公園)



大曲り(周布町)



養元寺前の旧街道





榎野川河川公園



千代丸橋から望む



朝田神社の森



朝田墳墓群公園





子育て観音(朝田)



五の宮跡(朝田)



山伏さま(和田)



馬庭の大岩(馬庭)





## お祝いのことば

—21世紀への新たな<sup>たびだち</sup>出発—

山口市長 佐内 正 治

巡り止まない歳月の流れの中に幾多の歴史を刻み、大歳小学校が創立100周年を迎えられ、その記念事業の一環として、このたび「大歳小百年史」が発刊されますことに心からお喜びを申し上げます。

100年の校史の編纂は、明治・大正・昭和・平成の4代、まさに激動の一世紀を乗り越えて先輩諸賢の方々が営々として築かれた輝かしい伝統と歴史を回顧する機会になるとともに、この伝統に更に磨きをかけて、現在を生きる後輩の方々が明日を切り開く道しるべになるものと確信しております。

このたびの百年史の編纂にあたりましては、大歳小学校100周年記念事業実行委員会の方々をはじめ、この記念行事の推進に一体となってお協力ご支援された、卒業生や大歳地域の方々、とりわけ記念誌編纂に直接携わってこられました記念誌編纂専門委員会の皆様におかれましては、膨大な資料の収集・整理・編集そして校正等、毎日が苦悩の連続であったと伺っています。この献身的なご尽力はひとえに関係者の母校に対する限らない愛情と郷土愛の賜のものであると、改めて深厚の敬意を表するものであります。

大歳小学校は、明治28年10月1日、歴史と文化そして自然に恵まれた現在地に「大歳尋常小学校」として開校。以来たび重なる学制の改廃、校舎の増改築、大正8年には山口師範学校代用附属小学校となるなど、幾多の変遷を経てきましたが、その間一貫として次代の展望に立った小学校教育の推進役として輝かしい実績を積み重ね、多くの有為な先賢を輩出された伝統のある学校であります。

近年では、山口県準健康優良校・山口県環境衛生優良校の表彰、本市の同和教育研究、福祉教育指定を受けられての数々の実践発表、さらに平成6年度におきましては、中国地区国語教育研究大会の会場となり「新しい時代を開く国語力の育成」のテーマのもと、一人ひとりの思いや願いがひろがる国語教育の創造に取り組まれ、その実践にもとづいた研究の成果は本市はもとより県内外からも高く評価されているところであります。

このような、今日に至るまでの大歳小学校のすばらしい教育実績は、恵まれた学校と地域の自然環境はもとより、歴代校長先生をはじめ教職員の方々の並々ならぬご尽力と、保護者・同窓生・地区民各位のご理解とご協力の賜のものであると深く感謝を申し上げる次第であります。

本校の生成・発展・飛躍する姿を、この「百年史」に見るとき、同窓生の皆様方の喜びはもとより、本校ゆかりの数々の教職員、保護者、更には地域の方々の感激もひとしおのものがあろうと思います。

おわりに、この「大歳小百年史」が本校の限らない発展の礎となり、21世紀への新たな<sup>たびだち</sup>出発となるよう祈念いたしまして刊行のお祝いのことばといたします。



## 大歳小学校百年史の発刊に寄せて

山口市教育委員会教育長 井 上 洋

21世紀はすぐそこまできています。未来の日本を築く主体的で創造性に富む日本人の育成を目指して、教育改革が国をあげて推進されているこの時、大歳小学校が、開校100周年を迎えられ、「百年史」が発刊されますことは、誠に意義深く、心からお祝い申し上げます。百年の風雪を乗り越えて築かれた歴史と伝統を顧みて、今日の大歳小教育の在り方を問い直し、新しい教育の指針を求めようとされる百年史の発刊は、新しい時代の要請に応える教育実践を積極的に推進されようという御決意であると拝察し、深い感銘を覚えるものであります。

このたび、この記念誌発刊にあたり、資料の収集や整理に取り組まれ百年史編集に御尽力されました関係者の皆様、および、この事業に一体となって御協力御支援されました方々に対し深厚の敬意を表すものであります。

ところで、ここに見る『大歳小学校100年の歩み』は、まさに、子どもと共に考え、子どもと共に喜び、子どもと共に生きて来られた、教育の営みと開拓の歩みそのものであり、その足跡と功績には、学ぶものが大であります。本百年史にも記されておりますように、大歳小学校は、古くから教育研究の盛んな学校であり、たえず時代と未来をみすえた新しい教育実践に取り組まれ、これまで多くの貴重な足跡を残してこられましたことは、各方面から高い評価を受けているところであります。

とりわけ、永年にわたって取り組んでこられました、児童の健康教育や学習指導に関する実践研究、また、近くには、平成6年度の中国地区国語教育研究大会の会場校として取り組まれた「一人一人の思いや願いがひろがる国語教育の創造」については、実践にもとづいた着実な研究であり、すばらしい成果をあげられました。このことは、学校・地域はもとより、本市をはじめ山口県教育にとりましても新しいページを切り開いていただいたものと敬服いたしているところであります。

これらは、とりもなおさず、学校と地域の方々との教育に対する深い御理解と御熱意の賜物と深く感謝いたしております。

こうした輝かしい伝統と実績のうえに、今後さらに、特色ある、そして、開かれた学校づくりを推進され、大歳小教育の一層の発展を祈念いたしますとともに、百周年記念事業実行委員会の皆様や、地域の皆様をはじめ、大歳小学校を愛し慈しみ育てていただきます皆様方に、心より感謝申し上げ発刊に寄せることばといたします。





## 発刊によせて

大歳小学校100周年記念事業実行委員会

委員長 三井 茂

創立100周年を記念して、ここに「大歳小百年史」を発刊することができました。各位とともにご同慶に存じます。と同時に、このようにごあいさつできることは、私にとりまして至上の光栄であり、感謝申し上げる次第であります。

本校は、樫野川に沿った緑に囲まれた豊かな農村の地に、明治28年矢原朝田村大字矢原の本地に新しく学舎1棟が建てられて以来、明治・大正・昭和・平成と一世紀の長きにわたって、さまざまな歴史の変革とともに輝かしい伝統を築き上げてきました。

昔の人は、「十年一昔」といって、10年前のことは昔のことだと言っていました。したがって、100年と一口で申しますが、昔流に言えば“とんと昔の、その昔”の古いことで、多くの人達の忘れてしまったころのことになります。その頃から大歳小学校の礎ができていたのであります。その長い間いかに多くの旧師、先輩諸賢の方々が苦しみ努力されてこられたことか、はかり知れないものがあります。その1例として、私なりに特筆したいことは大正末期から昭和10年代半ばまでの輝かしい記録であります。“樫野の流れに身を鍛え”の歌の文句にあるように、往時の大歳小は、「水泳大歳小」の名をほしいままに活躍していました。山口市内対抗競技は言うに及ばず、常に県体でも優勝の連続でありました。その「たくましい大歳っ子」を育てくれたのが郷土を流れる樫野川であり、先生や先輩の方々でありました。今更ながら、深甚なる敬意と感謝の意を捧げる次第であります。

このたびの100周年記念事業に当たっては、早くから実行委員会の設置をみ、さらに各専門委員会（式典文化、広報、記念誌編纂、記念事業、財政）を設け、地区自治会、各種団体、学校当局、PTAの方々が一一致してそれぞれの分野ごとに数回の協議を重ね今日に至ったところであります。

就中、百年史編纂は、正確な歴史の事実を伝えると同時に、教師と児童が一体となって豊かな人間づくりに努力してきた険しい道のりとその歩んできた姿を描くことにあったのではないかと思います。

編集にあたっては、編纂委員会の方々の献身的なご尽力によるものであることは申し上げます。今日の喜びを味わわれる委員各位、学校ご当局の諸先生方にあらためて感謝申し上げます。

終わりにあたり、意義ある創立100周年を祝福し、本誌発刊にあたられた学校当局、実行委員各位、PTA、同窓生、他多くの方々の絶大なるご援助、ご協力に対し、厚くお礼を申し上げますとともに、わが大歳小学校が今後益々発展していくことを祈念いたします。



## 大歳小学校の更なる発展を祈念して

大歳小学校長 福重悦子

樫野川流域の田や畑の中に、雉や白鷺が降りたち、餌をついばみ、羽を休めている情景をしばしば目にすることができます。100年前も恐らく同じような姿を当時の人達は眺めていたのではないのでしょうか。大歳の地は市街地の一部にありながら、まだ、自然がたくさん残っている地域でもあります。大歳小はこのような恵まれた環境の中で、100年の歴史を刻んでまいりました。

大歳小が誕生した頃をひもどきますと、大歳という校名の由来は、子どもの好きな「大歳さま」という神様のほこらがあった場所に学校が建築されたことによります。「子ども好き」というのは、教育の原点であり、教育を行う者が子ども好きであってこそ、子どもから信頼されますし、思いやりの心情を育てることになります。この精神は、その後もずっと継承され、昭和50年には同和教育の研究指定、平成2年には福祉教育の研究指定として積極的な教育が行われてまいりました。

現在、本校は「豊かな個性と感性をもった人間の育成」をめざして努力しておりますが、校名の由来に思いをはせる時、精力的に取り組むべき目標であると痛感しているところです。

大歳小は、多くの同窓生や地域の人、また教師によって守られ、育まれてまいりました。中でも、大正8年に山口師範学校の代用附属小となり実に24年間その任に当たり、621坪の農業実習園で、労働を取り入れたユニークな人間形成がなされました。このことは、近年重要な関心事になっている「生涯学習」が既に青年教育や成人教育の形で実践されていたということであり、指定を受けたのも当然の成り行きだったと思われます。

校舎建築につきましても目を見張る業績があります。昭和29年には、本校2階建ての教室に教材室が併設された、当時としては最先端をいく建物が新築され、文部省のモデル校舎になりました。この度、その校舎は、多目的ホールや部屋の広さ・形が自由に換えられるオープンスペースを備えた3階建てに改築されました。

100年にわたる関係者の数限りない業績は、今日の大歳小の存在にすべてが凝縮されているのであり、本校の教育にたずさわる教師として責任の重さを痛感いたします。そして、次の世代へととりっぱにバトンタッチしていけるよう頑張りたいと思います。郷土を愛し、21世紀にはばたく国際人としての資質を備えた子どもを育成していくのが、それに応える責務ではないのでしょうか。

終わりに、百年史の刊行に当たられた各委員の皆様、また、すばらしい学校にしていたいただいた同窓生や地域の皆様に感謝の気持ちを表すとともに、大歳小のますますの隆盛を祈念してやみません。

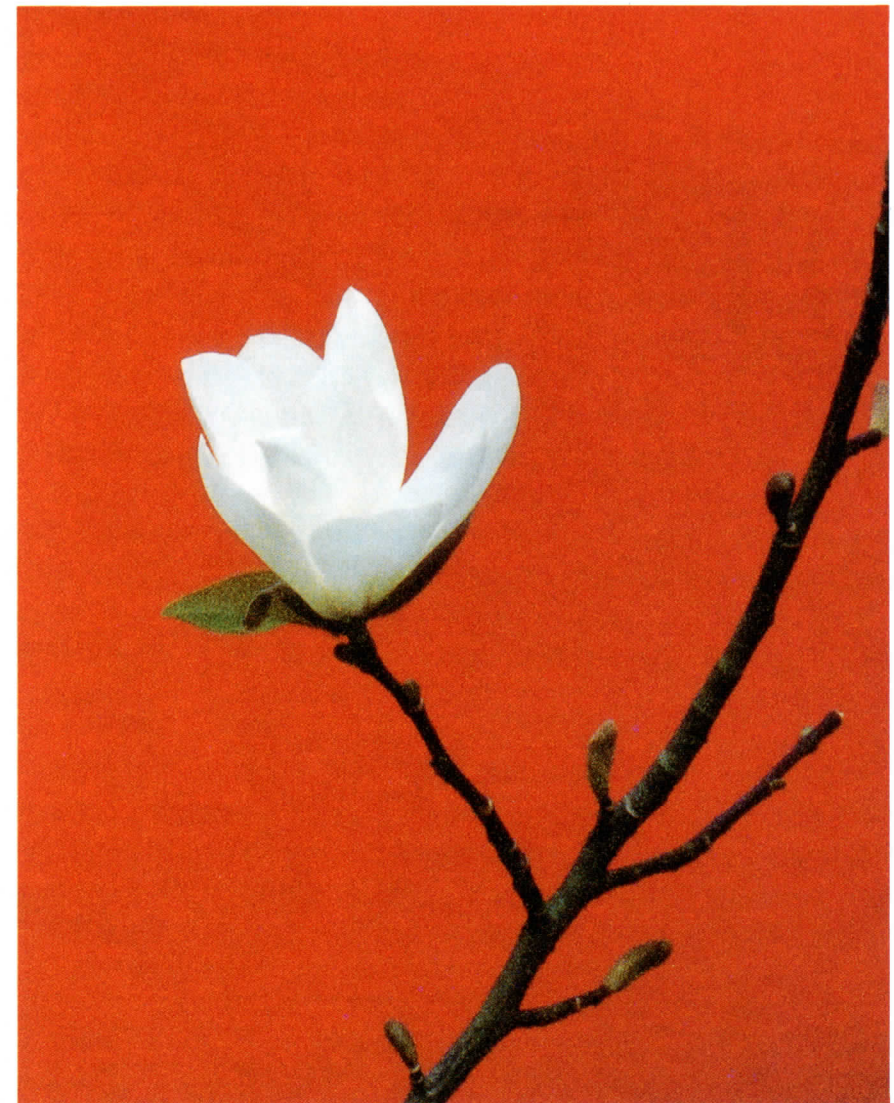


## 目 次

|              |                           |     |
|--------------|---------------------------|-----|
| 第1章 郷土の歩み    | 1. 立 地……………               | 3   |
|              | 2. 大歳の沿革……………             | 4   |
|              | 3. 神社・仏閣等……………            | 30  |
|              | 4. 名所旧跡……………              | 34  |
| 第2章 大歳小学校の歩み | 1. 学校教育制度の変遷……………         | 38  |
|              | 2. 学校配置図……………             | 60  |
|              | 3. 学校行事の変遷……………           | 66  |
|              | 4. 児童の学校生活……………           | 69  |
|              | 5. 年 表……………               | 82  |
| 第3章 大歳小学校の現況 | 1. 21世紀を指向した教育の創造……………    | 100 |
|              | 2. 本校の主な教育活動……………         | 103 |
|              | 3. 中国地区国語教育研究大会で授業公開…………… | 107 |
|              | 4. 特別教室棟の建築と門柱の建立……………    | 108 |
| 第4章 地域の社会活動  | ○大歳小学校PTA活動について……………      | 110 |
|              | ○公民館の活動について……………          | 114 |
|              | ○さわやか学級……………              | 117 |
|              | ○大歳地区子ども会……………            | 118 |
|              | ○大歳太鼓……………                | 119 |
|              | ○大歳地区スポーツ少年団……………         | 120 |
| 第5章 思い出      | ○卒業生・先生の思い出の記録……………       | 126 |
| 第6章 百周年記念    | ○記念のなまえと学級写真……………         | 150 |
|              | ○記念の作文と学級写真……………          | 152 |
|              | 1. 創立100周年記念事業について……………   | 168 |
|              | 2. 100周年記念事業実行委員会組織……………  | 168 |
|              | 3. 各専門委員会の事業（活動）内容……………   | 170 |
|              | 4. 100周年を祝って……………         | 173 |
|              | ○心に太陽を ―碑銘によせて―……………      | 174 |
| 名 簿          | ○卒業生の名簿（在校生を含む）……………      | 176 |
|              | ○教職員の名簿……………              | 236 |
| あとがき         |                           | 241 |

表紙の題字／宮田平助（前実行委員会委員長）  
カラー写真／栗林和彦（写真家）

## 第1章 郷土の歩み



2000年の眠りから覚めた「弥生コブシ」の花

1982年。朝田墳墓群第Ⅱ地区で発掘された、弥生時代中期の食物貯蔵穴（直径1.5m、深さ2m）から、炭化したイネ・アズキ・アラカシの種子に混じって、生きた種子が出土した。山口大学農学部の子都宮宏講師によって播種され、翌年3月出芽。以来10年間手塩にかけて育てられた結果、1993年4月、古代の息吹きを伝える1輪の花が開いた。1年後には、世界中から注目され、「弥生コブシ」と命名されている。